

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成25年10月24日(2013.10.24)

【公表番号】特表2010-540281(P2010-540281A)

【公表日】平成22年12月24日(2010.12.24)

【年通号数】公開・登録公報2010-051

【出願番号】特願2010-526904(P2010-526904)

【国際特許分類】

B 4 1 M 5/00 (2006.01)

B 4 1 M 5/50 (2006.01)

B 4 1 M 5/52 (2006.01)

【F I】

B 4 1 M 5/00 B

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年9月4日(2013.9.4)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0014

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0014】

本発明は、支持体を含むインクジェット記録用要素であって、該支持体上に、連続相バインダーポリマー、およびヒドロコロイドを含む第2の相を含む多孔性可融性ポリマー粒子ならびに膜形成性バインダーを有する画像受理層を有し、該粒子は10～80容量%の多孔度を有する、インクジェット記録用要素である。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0017

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0017】

支持体を含み、この支持体上に、連続相バインダーポリマー、およびヒドロコロイドを含む第2の相を含む多孔性可融性ポリマー粒子ならびに膜形成性バインダーを含む画像受理層を有する本発明のインクジェット記録用要素を作成するために、多孔性可融性ポリマー粒子が使用され、ここでこの粒子は10～80容量%の多孔度を有している。インクジェット記録用要素におけるかかる多孔性粒子の使用は、インク受理層を作成するのに必要なポリマー質量を低下させるであろう。例えば、50%の多孔度を有するポリマー粒子は、同じ画像形成結果を達成するのに半分の質量で済むはずである。かかる粒子は、融着のための同じサイズの中空でない粒子と比較して半分の質量のみしか存在しないため、より速く融着する。熱モデル化結果は、4マイクロメートルの中空でない粒子から50%の多孔度を有する4マイクロメートルの多孔性粒子に変わると、融着プロセス速度が少なくとも23%上昇することを証明した。多孔性可融性ポリマーは、インク捕捉材料としてもインク輸送材料としても、両方で機能できる点で多機能性である。毛細管作用受動捕捉により又は孔中の染料媒染剤と結合してインクが孔中に捕捉されると、インク安定性、特に染料ベースのインクの安定性が改善される可能性がある。従って、多孔度が上昇しているポリマー粒子は、ページ当たりのコストを低下させ、かつ、高い光沢と画像安定性を提供することにより画像品質を改善しながら、融着エネルギーを節約するであろう。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

支持体上に多孔性可融性ポリマー粒子を含む画像受理層を有するところの該支持体を含むインクジェット記録用要素であって、該多孔性可融性ポリマー粒子は蒸発制限凝集法と併用する多重乳剤法によって形成され、該画像受理層は、該多孔性可融性ポリマー粒子および膜形成性バインダーを含み、該多孔性可融性ポリマー粒子は、連続相バインダーポリマー、およびヒドロコロイドを含む第2の相のコロイドを含み、該粒子は10～80容量%の多孔性を有することを特徴とするインクジェット記録用要素。

【請求項2】

前記の連続相バインダーポリマーが、ビニルモノマー、縮合モノマー、縮合エステル、及びこれらの混合物から形成されるポリマーを含んでなる、請求項1記載のインクジェット記録用要素。

【請求項3】

前記の連続相バインダーポリマーが、ポリエステルならびに、スチレン、モノオレフィン、ビニルエステル、-メチレン脂肪族モノカルボン酸エステル、ビニルエーテル、及びビニルケトンのホモポリマー及びコポリマーからなる群から選択される、請求項1記載のインクジェット記録用要素。

【請求項4】

前記の可融性ポリマー粒子のTgが40～100である、請求項1記載のインクジェット記録用要素。